

平成 29 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞
(国土交通大臣賞)

「地形や古地図を調べて備えよう」

兵庫県 関西学院中学部 1年 ^{かげやま}景山 ^{まりな}真璃那

2015年7月17日、私たちの住む神戸市東灘区西岡本の町に避難指示が出ました。1軒1軒の家の玄関先に消防隊員の方が、訪ねて来られました。近くには、消防車が停まっています。自宅のある住宅地のすぐ裏にある六甲山の麓の山が今は大丈夫だけれども、このまま雨が降り続けば、土砂崩れを起こすかもしれない。もし起こってしまえば、住宅地に土砂が流れ込むので、なるべく早く避難をしてほしいと伝えられました。地域の防災無線も流れ、遠くから聞き慣れないアナウンスの音が広がり、いつもと違う物々しさが、小学5年生の私にもひしひしと伝わってきました。母は、自治会の方や近所の仲良しの方とすぐに連絡をとりあい、自分たちが今からどうするべきなのか、話し合っていました。こんな緊急の時に、すぐに連絡をとりあえる方がいることが、とても心強く思い、母がどんな判断をするのか、家族がその答えを待っていました。避難指示とは、避難するかどうかの最終的な判断は、個人に任せられているようでした。結局、その日は雨も小降りになってきていたので、自宅で様子を見ることになりました。防災ネットからメールが届くと同時に、母はいつ自宅が停電になっても良いようにと、炊飯器でご飯をたくさん炊いて、サランラップでおにぎりを握り始めました。

まだ、早い目の夕方だったのですが、今のうちにと、お風呂にお湯を溜めて、家族全員が順番にお風呂を済ませてから、夕食も済ませました。玄関先には、避難先で眠れるようにと、毛布や、バスタオル、私や弟たちの簡単な着替え、懐中電灯や、ティッシュペーパー、大きなビニール袋、水や、先ほど母が準備をしてくれたおにぎりも、リュックに詰めて、家族5人のスニーカーも並べておきました。

「もう、あとは眠るだけよ。いつ停電してお部屋が真っ暗になっても怖くないからね。」まだ小さい2人の弟と、そっと話をしながら私たちは、先に横になりました。服装は、いつでも外に出られるような、格好をしておきました。

私たちが横になった後も、窓の外には、雨が降り続き、カーテンの向こうで雷も鳴っていました。これまで、何度も大雨が降りましたが、避難という言葉が出て来たのは、初めてでした。不安な気持ちで弟たちと一緒に眠りました。もし、この夜の間、父と母が避難するよ。と判断したら、私は、まず弟を起こして、怖がらないように、声をかけながら玄関まで連れて行こう。そんなことを考えました。

朝を迎えました。窓の外の景色に目をやりながら、うっすらと差し込んで来る外の光にあっ！まだ私は、自宅にいる。外の雨は、やんでいるようでした。大丈夫だったんだな。と気づき、ほっとしたことを思い出します。

もし、避難をするとしたら、私の通っていた本山第2小学校の図書室だったそうです。図書室には、カーペットが敷いてあるから、リラックスして休息できるからとのことでした。その日には、3家族11人の方が小学校に避難に来られたそうです。足が不自由なおばあさまをおんぶして、雨がひどくならない早いうちにと、避難に来られた近所の親子がいらっしたそうです。学校の先生は、阪神淡路大震災以降、初めての出来事だったので緊張されたそうです。こんな緊急の時に、学校に泊まり込んで、地域の方々の為に奉仕して下さる先生方の存在に改めて、感謝の気持ちになりました。

2014年8月20日に広島県広島市北部を襲った大規模な土砂災害がありました。77人の方が尊い命をおとされました。住み慣れた住宅が一瞬で土砂に飲み込まれて、たくさんの方が犠牲になりました。その広島北部の山と私の住む町の六甲山の土や地形が似ているということを母に教えてもらいました。花崗岩とよばれ、御影石としても有名なのですが、風化していくと真砂土とよばれる、砂のような土にかわっていく。強い降雨にもろく崩れやすい土質なのだそう。私の町を見下ろしてくれて、いつも優しく見守ってくれる六甲山が、実は雨に弱いなんて。大量の水を含んでしまえば、崩れるかもしれない、自然の力の恐ろしさのような。偉大すぎる力を感じました。住宅地から住吉川の上流に向かって歩いていくと、砂防ダムがいくつもあります。静かな山の中では、ただの砂防ダムだけど、ひとたび豪雨が降れば、大量の土砂がこのダムでせき止められて、市街地に土石流が一気に流れ込むのを防ぐ役割をしていることも分かりました。今度、弟たちと一緒に住吉川の上流にある五助ダムにハイキングに出かけてみようと思います。六甲山の地形や古地図をもっと調べてみたくなりました。